

2026 年度（第 2 次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

日本アジア言語文化専攻（日本文化領域）

解答例・出題意図

まず配点について、

設問（1）は各 15 点×4 問

設問（2）は各 70 点×2 問

とする。合計で 200 点満点である。

設問（1）

(A) 大本教

1892 年に出口なおが京都市綾部で開いた神道系の新宗教。出口王仁三郎が教団に参加してから発展し、社会変革を説いた。戦前、軍部から 2 度の弾圧を受けた。戦後は思想史研究の対象にもなり、安丸良夫『出口なお』など、思想史研究・民衆史研究の新展開を象徴する仕事も生まれた。

(B) 磯田光一

文芸評論家。1960 年代に三島由紀夫論で出発したのち、日本の近現代史に基づいて文学作品を論じる手法が評価された。磯田の方法は、同時代のテキスト論・都市論・空間論を先駆的に文芸評論に取り入れ、江藤淳と並んで文芸評論を刷新した評論家である。代表作に『殉教の美学』『戦後史の空間』『左翼がサヨクになるとき』がある。

(C) 雑誌『anan（アンアン）』

平凡出版（現・マガジンハウス）が 1970 年に創刊した女性向けの週刊ファッション・ライフスタイル誌。欧米のスタイルを踏襲した既製服市場の成熟や、若い女性の可処分所得の増加にともなうレジャー需要の増加などを背景に、さまざまな企画を立てて読者に支持された。日本において、若い女性を消費者として可視化させる機能を果たした画期的な雑誌だったと評価される。誌名はパンダの名前からつけられた。

(D) 井上哲次郎

明治から大正期に東京大学で哲学教授を務めた哲学者・詩人。カントやショーペンハウアーなど、いわゆるドイツ観念論の輸入者として知られ、現代の日本の学術用語にも井上訳した言葉が残っている。その後、教育勅語の解釈や東洋哲学研究に進み、近代日本の思想・教育に影響を与えた。

(E) サンリオ（株式会社の名称を指す）

1960 年に株式会社山梨シルクセンターとして設立された企業。高度経済成長期にはグリーティング・カードの輸入・販売をおこなっていたが、60 年代後半からはそれと並行して

## 2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

### 日本アジア言語文化専攻（日本文化領域）

#### 解答例・出題意図

キャラクター雑貨（ファンシー雑貨などと呼ばれた）の開発・販売に乗り出し、成功を収めた。1973年にサンリオに改称し、現在に至るまでキャラクタービジネスを展開している。「かわいい」という言葉を、国際的かつ全世代に、性別に関わらず広めた企業として評価可能である。

#### (F) 『ハウルの動く城』

2004年に公開されたスタジオジブリの長編アニメーション映画。監督は宮崎駿である。魔法使いハウルと、呪いによって老婆の姿に変えられたソフィーの交流を描く。製作期間は、対テロ戦争（イラク戦争）と重なっているため、作中の軍隊の描写やハウルの葛藤などに注目すれば、宮崎駿の同時代との思想的葛藤が描かれた作品として鑑賞可能な作品になっている。

#### (G) クィア・ファミリー

性的マイノリティが、血縁や法的な婚姻関係とは別に形成する家族の形。愛、友情、信頼などの親密性に基づいた共同生活や共同育児を指すことが多い。従来男性優位のジェンダー規範に基づいた核家族像を相対化し、さらには異性愛規範をも超えた、多様な関係性を模索する実践でもある。

#### (H) コム・デ・ギャルソン (COMME des GARÇONS)

川久保玲が1969年に設立したファッションブランド。既成概念に捉われない「アンチモード」を掲げ、日本を代表する世界的ブランドに成長した。「黒」を多用したり、パッチワークのパターンを使用したりと、ファッション業界の常識を覆すデザインで知られる。80年代以降、ファッション論や思想研究の対象にもなり、ファッションブランドに留まらない現代的なインパクトを社会に与えた。

#### 設問（2）

設問（2）に関しては、あえて多様な答案が可能になるように出題している。また、出題者の想定を超えるような独創的な解答を期待して出題してもいる。そのため、模範解答というかたちではなく、採点基準となる要素を挙げることにする。

(ア) 「市民」概念については、戦後啓蒙期の代表的知識人（たとえば丸山真男や大塚久雄）らが想定した「国家から自立・自律した個人の集合」という含意がある。この含意については、戦争体験の反省、日本社会に根付いた前近代性への決別の意図などが込められていたと言えるだろう。その後、たとえば松下圭一らにより、地方自治に関する具

## 2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

### 日本アジア言語文化専攻（日本文化領域）

#### 解答例・出題意図

体的な制度・システムを構築するための鍵概念にもなった（シビル・ミニマムの思想）など。あるいは、市民運動というかたちで練り上げられた例もある。日高六郎や久野収、小田実らが、職業人や主婦たちが中間団体の動員とは異なる経路でパートタイム的に参加する社会運動を市民運動と呼び、定着させた。

（イ）村上春樹のどの作品を取り上げるかによって、解答は異なる。ただし、自我のありかたに注目せよと書いたとおり、（これまでの批評言説が注目してきた）デタッチメントについての記述が求められる。村上春樹の文学作品には、「突然の喪失」という主題が共通して言えるが、それを、全共闘運動後の「シラケ世代」と結び付けても構わないし、精神分析と結び付けて記述してもかまわないだろう。あるいは、彼の作品に頻繁に登場するモノ（テニスシューズ、ハイネケン）や象徴（井戸、暗闇）に注目するという答案もあり得る。いずれにしたところで、具体的な作品に即して合理的・説得的記述が展開されているかどうか、採点基準となる。

（ウ）日本の災害に関する集合的記憶を描いた作品には、東日本大震災を題材にしたものだけでも、新海誠のアニメーションや、園子温の映画、吉村萬壺や多和田葉子の小説など、多様に存在する。あるいは、阪神淡路大震災であれば、映像作品（テレビと映画）『その街のこども』や、村上春樹の短編小説などがある。どの作品を取り上げてもかまわないが、ポイントは以下の通りである。第一に、その作品が、特定の災害をどのように描いているのかを具体的に記述していること。第二に、その描写が集合的記憶とどのように関係しているのかを、日本社会の動向を踏まえたり、「何が描かれていないか」に注目したりして論じることである。（イ）と同様、具体的な作品に即して合理的・説得的記述が展開されているかどうか、採点基準となる。

なお、誤字脱字はその都度マイナス1点とする。